

Office Urologyにおける 日帰り尿失禁手術の検討

医療法人MIRIZE 中川ごうクリニック

中川 剛



概要

近年、我が国において高齢化に伴う社会保障費の増加および労働人口の減少が問題となっている。そのような外部環境の中において医療現場では入院期間の短縮および社会復帰の早さが求められる時代になってきている。また、ITやSNSの普及に伴い、患者のニーズも多様化してきており求められる医療サービスが変化しつつある。

自社は2014年から日帰り手術を提供し、今回はその中でも日帰り尿失禁手術について手術方法、治療成績および経済性などについて検討したので報告する。

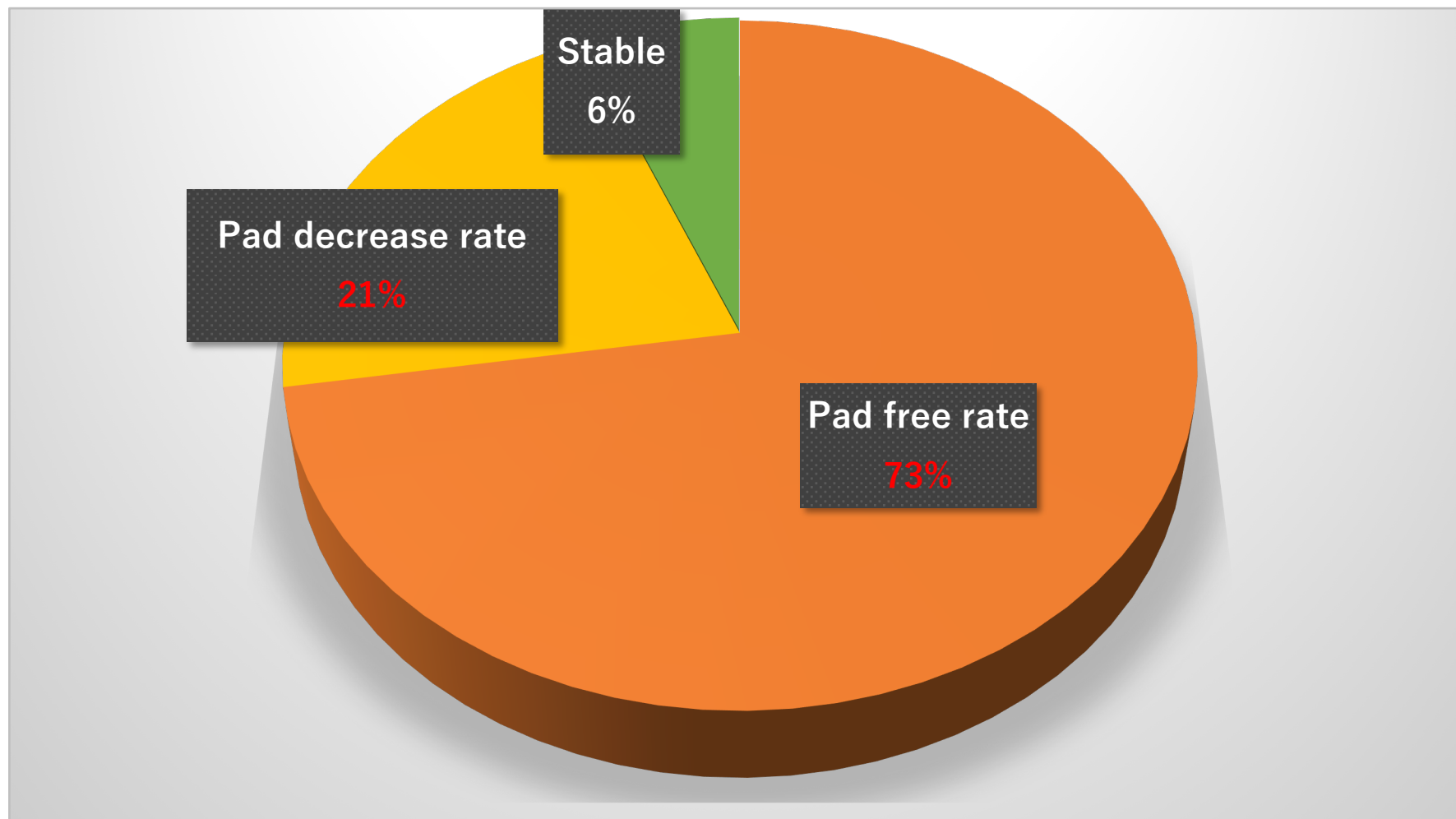


結果①

- 平均手術時間：38分(25-90分)
- 平均出血量：5ml(1-180ml)
- 術中合併症：尿道損傷1例
- 術後合併症：0例

- 入院を必要とした症例：0例
- 麻酔後頭痛：1例

結果②



* Pad decrease … パッド枚数2枚以上の減少

日帰り尿失禁手術VS尿もれパッド

	1割	3割
尿失禁手術(TOT、TVT手術) 自己負担額	20,000	80,000

パッド2枚以上使用した場合

- ・ 1割負担の方で期待余命が3年以上の方
- ・ 3割負担の方で期待余命が10年以上の方

たとえ少量でも積極的に手術を勧めた方が経済的なメリット期待できる。

80cc(1枚：17.2円※)	12,560	25,110	37,670	63,780	125,560
120cc(1枚: 23.6円※)	17,230	34,460	51,690	86,150	172,300

※ amazon参考価格

* 2枚/日使用した場合 (円)

まとめ

Office Urologyでの日帰り尿失禁手術は手術成績や合併症も入院と比較し遜色なく可能である。

また、経済性や早期社会復帰のメリットも期待できる。しかし、患者のニーズに対応するだけでなく、常にデメリットに対する対策を行い、リスクにもきちんと対応しておくことは必須であると考える。